

○普及に移す技術

[タイトル] 発生予察に基づいたニカメイチュウの薬剤防除法

[要約] 越冬前幼虫数が要防除水準に達した場合、第1世代幼虫に対する防除効果が高い殺虫成分を育苗箱施薬することにより、心枯被害等が軽減する。特に、クロラントラニリプロールの防除効果は高く、次世代の第2世代幼虫による被害軽減や越冬前幼虫の密度低下につながる。

[担当場所・課] 農業研究所・病理昆虫課

[協力機関] 広域普及指導センター、新川農林振興センター

[キーワード] ニカメイチュウ、発生予察、クロラントラニリプロール、育苗箱施薬、密度低下

[連絡先] 電話 076-429-5249

[背景・ねらい]

県内では、しばらくニカメイチュウの発生が少なかったが、一部地域で再び多発し、大きな問題となっている。そこで、防除薬剤の見直しを行うとともに、多発地における適用、そして発生予察に基づいた薬剤防除の組立てを提案する。

[成果の内容・特徴]

- 1 ニカメイチュウに登録のある殺虫成分を含む育苗箱施薬剤（表1）は、いずれも第1世代幼虫に対する防除効果が高く、さや枯、心枯被害が少なくなる。（図1）。
- 2 クロラントラニリプロール（殺虫成分名）を含む育苗箱施薬剤は、第1世代幼虫への防除効果が特に高く、次世代の第2世代幼虫による被害軽減や越冬前幼虫の密度低下につながる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 越冬前幼虫数が要防除水準の1,000頭/10a以上に達した圃場で、水稻を作付する場合、ニカメイチュウに効果の高い育苗箱施薬剤を処理する。
- 2 育苗箱施薬剤は、薬剤抵抗性の発達を避けるため、系統の異なる薬剤と3年程度で切替える。
- 3 防除要否の判断は、県の指針で示す要防除水準を用いる（図中の要防除水準参照）。
- 4 ニカメイチュウが多発した場合は、広域的な防除対策が効果的である。

[具体的データ]

表 1 ニカメイチュウに登録のある殺虫成分を含む育苗箱施薬剤

略称	育苗箱施薬剤	殺虫成分
スピノ	ルーチンアドスピノ箱粒剤	スピノサド* イミダクロプリド
トレス	ルーチントレス箱粒剤	クロラントラニプロール* イミダクロプリド
フェルテラ	Dr.オリゼフェルテラ粒剤	クロラントラニプロール*
プリンス	Dr.オリゼプリンス粒剤6	フィプロニル
箱いり娘	箱いり娘粒剤	スピネトラム* クロチアニジン

下線: ニカメイチュウの防除効果が高いとされる殺虫成分

*: 2011～2012年にニカメイチュウに新規適用となった殺虫成分

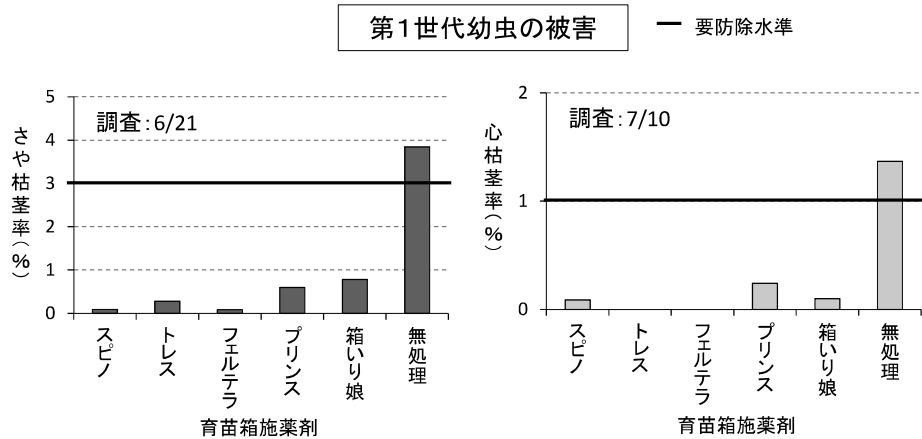


図 1 育苗箱施薬剤別の第1世代幼虫に対する防除効果 (2013)

育苗箱施薬: 処理日 5/10(移植当日). 本田防除なし.

試験地: ニカメイチュウ多発3年目の現地圃場.

周辺水田に処理した育苗箱施薬剤: ルーチンアドスピノ箱粒剤.

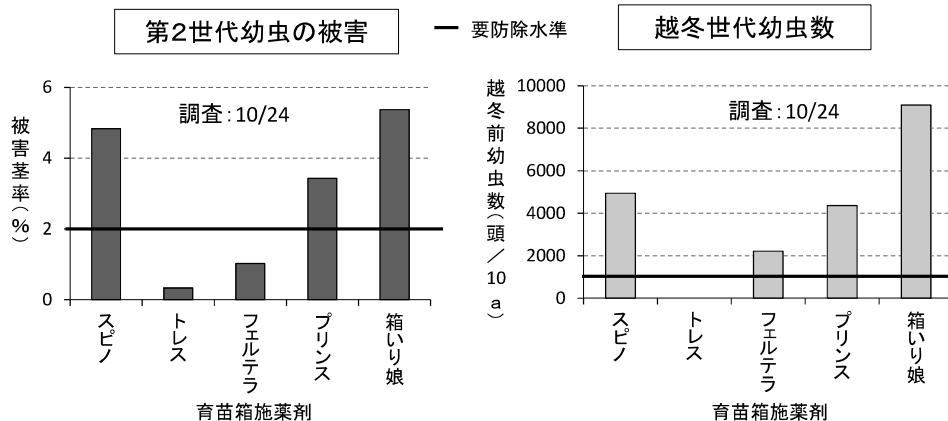


図 2 育苗箱施薬剤別の第2世代幼虫に対する防除効果 (2013)

育苗箱施薬: 処理日 5/10(移植当日). 本田防除なし.

試験地: ニカメイチュウ多発3年目の現地圃場.

周辺水田に処理した育苗箱施薬剤: ルーチンアドスピノ箱粒剤.

無処理のデータなし.

[その他]

研究課題名: 新規成分等による水稻主要害虫の薬剤防除試験

予算区分: 他委(新農薬実用化試験)

研究期間: 2013～2014年度

研究担当者: 西島裕恵・青山政義

発表論文等: なし